

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500702		
法人名	社会福祉法人 サンライフ		
事業所名	グループホーム ジョイフル各務原		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼小伊木町3丁目170番地1		
自己評価作成日	平成22年7月3日	評価結果市町村受理日	平成22年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170500702&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所として、ご本人にとってよりよい生活を過ごしていただく為、併設施設(特養・DS)と連携し、行事への参加や提供できるサービスの充実を図っています。ご家族に対して、GHの理解を深めて頂く目的で、掲示板や意見箱の設置を行っている。利用者様の選択肢を増やし、地域活動への参加、社会的創出のため、見守り隊(地域の小学校などの下校時の見守り)へ随時参加を行っている。年2回家族会を開催し、利用者様、ご家族、職員の交流の機会を持つようにしています。家族会の後には、意見交換会を実施し、ご家族との意見交換できる場を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人施設に併設していることにより、ホームだけでなく広いスペースで暮らすことができている。職員は、ハウスマネジャーが目指す「互いに思いやり寄り添うケア」を十分に理解した上で、協力し合い実践している。職員は、勤務前に利用者全員の記録に目を通して状態や状況の把握に努めている。利用者の「つぶやき」を記録し、暮らしに反映させることには、とても力を注いでおり、十分活かされている。また、職員も提案や「これでいいのかな?」といった疑問を表すことができるよう取り組みがされているため、職員間の話し合いも盛んである。ハウスマネジャーを中心に職員が一丸となって、利用者のより良い暮らしを支援しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を掲示し、確認するようにしている。グループホーム独自のコンセプトを職員間で意識している。また、グループホーム独自の「憲章」の見直しも適時行う。	法人の理念とホーム独自の憲章を掲示し、職員は基本的な心構えを確認している。また、「互いに思いやり寄り添うケア」をコンセプトとして位置づけており、職員間で共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通して地域行事への参加を行っている。	ホームの周りに住宅がないため、近所付き合いのような関係ができないが、自治会の花見や夏祭り、秋祭りには積極的に参加している。ホームから地域への積極的な関わりを持つことで、地域に溶け込む取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々や学生のボランティアの受け入れを随時行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告事項は予め参加予定者に郵送、配布され、内容をよく確認していただいた上で、会議を開催している。毎回意見の吸出しを行い、次回に活かしている。	2ヶ月に1回、行政・地域や家族の代表などの参加して開催されている。会議開催前に報告事項を郵送し、会議の中で積極的な意見交換ができるよう取り組んでいる。報告事項の質問に答える形式で会議が進められている。	地域とのつながりがより深まり、地域で認知症への理解が深まるような話し合いの場になり、地域の福祉拠点となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事に市関係者を招待し、現場の様子に触れていただける機会を年2~3回持っている。	ホームでの行事には市関係者を招待し、利用者との交流を図っている。	行事に市関係者を招待する際の窓口は法人施設であるが、ホームが地域密着としての機能を発揮するためにも、運営推進会議を通し、ホームと市関係者が直接協力関係を築くことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の資料を配布したり、勉強会を開催している。居室・玄関は施錠を行っていないが、門扉は日中鍵がかかっている状態である。	身体拘束とは何かを職員間で確認している。日中門扉には施錠してあるが、ホーム玄関から庭や施設へ自由に移動することが可能であり、スペースが十分あるため、門扉の施錠を持って拘束されている印象はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての認識を深めるため、勉強会を開催する。		

岐阜県 グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中で、地域権利擁護事業や、成年後見人制度についての勉強会を行い、理解を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明氏はハウスマネージャー・生活相談員が同席し、わかりやすく説明する。説明が終わった後でも、ご家族が不安を持っておられる様子であれば随時説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	つぶやきの拾い上げを行い、選定を行い、会議で話あっている。	面会時に、職員が家族から直接意見や要望を聞き取り記録している。運営推進会議には家族の代表が出席して意見交流を行っている。職員会議で家族の意見に対する検討も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議時に、意見発表の場を設けている。また、意見は無記名で出せるように配慮している。集まった意見は、会議時に発表し、検討を行う。また、個別対応については随時行っている。	職員が随時自分の意見を紙に書いて出せるようなホーム独自のシステムがある。月1回の会議の議題として話し合っており、内容によっては、随時話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り、利用者様の身体状況に合わせたシフトを組み、調整を行っている。(美容室での洗髪・個別入浴など)また、職員リフレッシュのため、計画的に有給取得を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の勉強会・研修は可能な限り参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協会主催の勉強会・研修などに参加し、ネットワーク作りに努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日中の中でコミュニケーションを取る時間をなるべく見つけ、必要に応じて個々の意見を吸い上げられるように、個別で話し合うなどの時間を確保する。得た情報は担当を中心に職員全員で把握できるよう努める。また、必要に応じて会議で話し合うなど検討する機会も設ける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	都度、担当やハウスマネージャーによる相談の受付を随時実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	検討する事例が発生した場合、ご本人・ご家族から意見を吸い上げ、それを担当職員とハウスマネージャー、各職員、施設長、相談員、介護長、地域包括職員等と相談し、適切な解決方法を模索するよう努めている。必要なもの(ソフト・ハード両方)はお互いの検討の上で利用できるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のそばに寄り添い、孤立させないように配慮している。過剰な介入、介助は避け、困った時は頼って頂けるような関係性を築くよう、努力している。現状の信頼関係を維持・改善し、ご本人にとって過ごし易い環境を努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	検討事項のあるなしに関わらず、ご本人にとってどの状態がベストか、ご家族が望まれる対応はどのようなものか、お互いに話し合うよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状やお手紙の返事などを一緒に作成したり、懐かしい場所を訪れたりなど(予定)を実施する。	生まれた育った故郷や懐かしい場所、もう一度出かけた場所が近くであれば、外出を計画し実施している。昔の知人が遊びに来て交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間の関係性を把握し、各人にとって過ごし易い環境を整えるように努めている。一緒に作業をやって頂くなど、関わりの機会を増やし、良好な関係性を保つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後でも、併設特養に入所された方に対しては面会に伺ったりと関わりを持つようにしている。今後もこの関係性を保ち、面会に行く他に、全体行事での関わりを持つなど継続出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当以外の職員も、各利用者様の希望・生活についての検討を行い、会議で話あうように努めている。各利用者様の思い、希望などつぶやきや会話の中から拾い、会議時に報告、検討するようにしている。	利用者の何気ない一言や感想を、利用者の大切な本音ととらえ、職員は「つぶやき」として記録している。その記録をもとに職員と家族が話し合い、希望や意向を見出し、思いやり寄り添うケアに結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの経緯や入居前の生活について聞き取りを行っている。可能な限りご本人の希望に添った馴染みの暮らし方が出来る様に努めている。得た情報は担当を中心に職員全体で把握できるよう努めている。また、必要に応じて会議で話し合うなど検討する機会も設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの作成に伴い、デイリープランの充実を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員・計画作成担当者・ハウスマネージャーが中心となり、利用者様・ご家族・各職員の意見を吸い上げ、ご本人の意向・QOLを高めることの出来るケアプランを立案するように努めている。	利用者の「つぶやき」をもとに、全職員で利用者の暮らしやケアを検討し、介護計画が作成されている。検討する前に、家族の意向や希望を確認し、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一記事を目標とし、日々の些細な出来事もなるべく日誌に反映するよう努めている。介護記録・情報連絡ノートに情報を記入することで、職員間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態変化などによって、グループホーム内での対応の選択肢が限られてしまった場合、打開策として併設施設の特養・DSのソフト・ハートを利用することも検討に入れている。情報交換もリーダー会議などで密に行うようにしている。		

岐阜県 グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向・必要性に応じ、地域のボランティアハウス(シニアクラブ)の催ものに参加したり、小学校の交流学習の受け入れを行ったりと幅を広げて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が病院受診される際には、BPデータをお渡ししたり、今までの身体所今日をまとめてお渡ししたりと必要なデータを提供できるように努めている。	ホームに入居する前のかかりつけ医に受診している。基本的には家族に受診同行を依頼している。ホームでの様子が主治医に分かるよう、体調などを記録し、受診の際家族に渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護師が一日に一回は見に来てくださるため、介護職員だけでは判断しかねる疾病に関すること等を相談し、ケアに反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、ご家族と連携を取りながら病院のソーシャルワーカー、医師と連携を取れるように調整役を行う。また病院への情報提供も行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については、利用者様・ご家族の意向を踏まえながら、医療機関などとも連携を取りつつ、可能な限りご希望に添えるよう努める。	利用者の重度化と終末は避けて通れない課題と認識しているが、ホームとして看取りは行わない方針である。できる限りの支援ができるよう、ふさわしい場所で暮らせるよう、家族とともに話し合い関係機関と連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、確認するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を特養と合同で実施し、参加するよう努めている。(年2回。総合非難訓練は年一回)。災害時の地域との連携については、特養と合同の形で検討している。	同敷地内の施設と合同で避難訓練を実施し、法人施設として地域との連携に取り組んでいる。ホームで自発的な避難訓練も行っている。夜間訓練については、職員間で検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を「人生の先輩」とし、お一人お一人を尊重できるよう配慮して対応している。	「自分がそれを言われたらどう思うか？」など、自分に置き換え振り返ることで、一人ひとりを思いやるのが自然にできるよう取り組んでいる。個人の生き方を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様にとってわかりやすい説明を行い、ご本人の意思を表出しやすい環境を整えるよう努めている。会議などで、長時間一緒にいることでなかなか対応になっていないか振り返る機会を持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活パターンを把握し、ご本人の希望に応じてどのように過ごして頂くか検討する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の今までの生活習慣を尊重し、ご家族と相談のうえ外部の理美容へ行かれる場合は、各人で対応していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関してのつぶやき・要望は会議を待たずに、可能な限り反映するようにしている。片付けに関しても各利用者様の希望による分担があり、可能な限り一緒に行っている。	併設施設が月1回開催している「寿司の日」には、ホームの利用者も参加し賑やかな食事を楽しんでいる。利用者の食べたいものを参考に献立を考えている。調理・配膳・後片付けなど、利用者ができる範囲で役割を分担している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の食事量に合わせ、提供している。また、水分を多く摂取できるよう、お茶をすすめる機会を食事、おやつ以外にも持つよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人で管理、施工が困難な方に対して、必要な部分の支援を行っている。ご本人で可能な方に対しては、様子をみながら助言を行っている。		

岐阜県 グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症の進行など状況に合わせて。トイレ誘導など随時行っている。また、現状について話し合いを持ち、ご家族の理解を得ながら良い方向へもって行けるように努めている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さり気ない誘導で失敗のない排泄を支援している。利用者の半数は自立している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘によって起こる影響について学び、排便のペースをつかむよう努めている。また、予防として食物繊維の多い食材の使用、牛乳の提供など行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番など、各利用者様との兼ね合いもあり全てご希望通りには対応できていない。利用者様には理解を頂いており、順番を変えるなど公平・楽しく入浴できるよう努めている。	入浴は毎日を基本としており、利用者も毎日入浴したい要望が多い。利用者本人のペースで、楽しくゆったりと入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の生活パターンを把握し、十分に休息を取って頂けるような環境(明るさ・温度・湿度・など)保てるよう季節によって調節できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、投薬内容を毎回カルテにしまい、処方量など確認し、変更あればその旨記入するようにしている。投薬内容(薬の種類)については各自確認したりし、内容把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の好みのレクリエーションを提供し、取り組むことの出来る時間・環境を提供できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事、特養の催し物に参加して頂いたり可能な限り外出する機会を作るようにしている。	2日に1回は、食料品の買い物に利用者職員が出かけている。毎月の職員の出出担当者が決められており、計画準備を任されている。月1回の外出を実践している。	

岐阜県 グループホームジョイフル各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際に、ご本人に財布を持って頂き、支払いを行って頂く様、各利用者様に応じた方法で関わって頂ける努力をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・ご家族の希望などに応じ、必要な手助けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は写真や手作り作品を掲示し居心地よく過ごせるよう配慮している。季節の飾りつけも行い、季節感を感じて頂けるよう努めている。	リビングには、利用者の作品や外出時の写真が展示されている。整理整頓された落ち着いた空間となっている。ゆったりと寄り添って座るソファが談笑の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用テーブルの他に、ソファコーナーや畳コーナー(和室)の整備を行い、思い思いに過ごして頂ける様努めている。状態に合わせて模様替えの検討を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品については、馴染みのものを持って来ていただくなどし、落ち着いて過ごして頂けるよう配慮している。	居室に設置されているものは、すべてが持ち込みである。個性あふれた居室であり、その利用者の暮らしぶりを思いやることのできる空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりをつけ、出来ることをご本人でやって頂けるよう環境を整えている。設備を維持できるよう、随時確認、必要時補修等を行っている。		